



主な内容

- ②……平成26年 消防白書
- ③……ひまわり、里親入門講座を開催、国津の杜の行事
- ④……二次救急実施病院、生ごみ処理機器などの購入費補助

地域のみんで力を合わせ、どんど作り



角結びで青竹12本(千支数)と中心竹を束ねます。 長さ約15mの束ねた青竹を、みんなで力を合わせて建てます。



割り竹にお餅を刺して焼く風景 円すい形の小屋にわらを巻きつけます。

どんどの継承が、地域の絆を深めています

美旗中村のどんどは、360年以上前から続く伝統行事です。私が子どものころは、1月14日の完成を目標に、子どもたちが正月から各戸を回り、わらと青竹を集めるなど、どんど作りに参加していました。どんどが完成した夜は、子どもたちだけでわらかまくらの中で餅などを焼きながら過ごす「お籠もり」をしました。翌朝、子どもたちが村全体に「どんど燃やすぞ」と呼び回った後、どんどに火を付けていました。

しかし、こうした行事も地元の子どもの少なくなる中、子ども会だけでは一連のどんどの運営ができなくなりました。美旗中村区からの呼び掛けもあり、有志らとともに、どんどを守り、後世へ伝えていくため平成17年に「美旗中村どんど保存会」を立ち上げました。今年で10年目になります。

保存会では、わらの確保やどんど建て、そして宵どんどでは、甘酒などの振る舞い、どんど焼きの後始末まで全ての運営を行なっています。特に、保存会の若い人には積極的に行事に参加してもらい、どんど作りを率先して頑張ってもらっています。

こうしたどんどの継承活動が、地域の連帯感や絆を深めています。

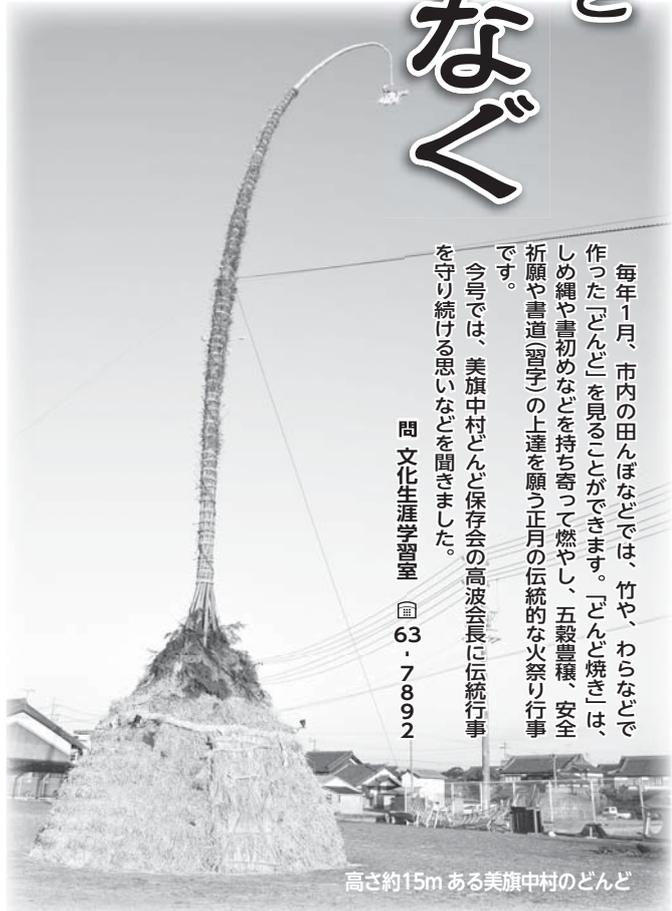


美旗中村どんど保存会
会長 高波 秀彦 さん

毎年1月、市内の田んぼなどでは、さまざまな「どんど」が見られます。特に美旗中村のどんどは、高さ約15メートルもあるどんどとして有名です。美旗中村のどんど作りは、青竹12本(閏年は13本)と中心にやや太めの竹1本を縄で束ね、円すい形の小屋を建てます。そこにわらぶきのかまくらを作る

と、どんどが完成。「どんど焼き」は、成人の日の朝に行います。お祓いの後、どんどに点火。大きな煙と炎が舞い上がりまします。参加者は、炎が静まるのを待つ。割り竹に刺した餅を焼きます。焼いた餅は、家に持ち帰り小豆粥に入れて食べます。家族一緒に新しい年の豊作や、一年の家内安全を願います。

伝統の火祭りどんど 輪と技でつなぐ



毎年1月、市内の田んぼなどでは、竹や、わらなどで作った「どんど」を見ることが出来ます。「どんど焼き」は、しめ縄や書初めなどを持ち寄って燃やし、五穀豊穡、安全祈願や書道(習字)の上達を願う正月の伝統的な火祭り行事です。

今年では、美旗中村どんど保存会の高波会長に伝統行事を守り続ける思いを聞きました。

問 文化生涯学習室 ☎63-7892

高さ約15mある美旗中村のどんど